

# 令和 5 年度第 22 回

## 北海道支部定期総会・医療講演会報告

事務局長 澤口 勇治

令和 5 年 6 月 4 日(日)4 年振りに北海道難病センターで開催された日本 ALS 協会北海道支部の総会・医療講演会が無事に終わりました。会場並びに Zoom のハイブリッド開催でボランティアを含め約 45 名の方々にご参加いただきました。

北海道支部総会は 2020 年、2021 年は書面開催、そして昨年は帯広市での開催で 4 年振りに札幌市で開催するため、どの程度ご参加頂けるか不安を持っていましたが、医療講演に興味を持たれた多くの近隣保健所の保健師さんが参加され、熱心に講演に耳を傾けておりました。

総会開始にあたって、5 月 15 日急逝された新屋前支部長を初めこの一年間にご逝去されました方々のご冥福をお祈りし黙とう捧げました。

第 1 部の定期総会は、澤口事務局長から 2022 年度事業報告及び 2023 年度事業計画の説明があり、そして会計からは 2022 年度会計報告と 2023 年度の会計予算案の説明があり、今年度は役員の改選期で新支部長に山田洋平さんを新運営委員に津川桂さん、遠田紀子さん、新監事に蛸島八重子さんを選出し、全ての提案事項をご承認頂きました。

第 2 部では、札幌市を中心に音楽療法活動をしている NPO 法人 和・ハーモニー音楽療法研究会「歌の翼隊」の演奏会があり、今回は男性 3 名のコーラスによる合唱もあり、美声を館内に響かせておりました。

医療講演では、講師に公立大学法人札幌市立大学看護学部在宅看護学領域 助教授の高橋奈美先生をお迎えし「ALS 療養者・家族の日常を支えるケア ～過去・現在・未来～」でご講演いただきました。

高橋先生には、2005 年から 2009 年までの 5 年間北海道支部の運営委員として活動いただきました。また、転勤で香川県に赴任した際、当時は香川県に ALS 協会支部が結成されていないため、岡山県に赴き岡山県支部において運営委員として活動していたと伺いました。

5年ほど前、札幌に戻りましたが、すぐさま北海道支部の総会に出席いただき古い役員のみなさんと懇談していたことを思い出します。

講演の中で第11回日本難病看護学会学術集会のシンポジウムに参加され、故笠松さんが発表した言葉《医療従事者に望むこと1.「わがまま」と「希望」、医療従事者に望むこと2.「共感」》です。

(このお話は次ページにて紹介させていただきました。)

まさしくALS当事者として療養生活を送るうえでの思いを発表されたものと思います。

本当に素晴らしい総会&医療講演会だったと思います。

医療講演にご協力いただいた高橋先生、「歌の翼隊」の皆様、そしてご参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。

(下部に掲載した写真も4年振り撮影した全体写真の1枚です)。

2023.06.06 記



## 医療従事者に望むこと 1

### 「わがまま」と「希望」

何かしてもらいたいときに「わがまま言ってごめんね」と頼むことがあります。自分でも「相手に悪いなと思う」ときです。

あるとき、友人にそう言って頼んだところ「わがままは聞かない」と返されてびっくりしたことがありました。でも、その後すかさず「希望なら聞く」と笑顔で続けて言ってくれ、して欲しいことをすぐにやってくれました。「それはわがままではなくてあなたの希望でしょ、希望をなら叶えてあげたい。」と「わがまま」と捉えるか、普通の「希望」と捉えるかは、求める人と受け取る人の関係にあるように思います。出来ないことを「わがまま」と思わないで頼んでいいんだよという雰囲気を作って欲しいんです。

## 医療従事者に望むこと 2

### 「共感」

自分の辛さをわかってもらえていると思える人と出会うと、自分の辛さが減るような・・・心が軽くなるような・・・痛みが和らぐような気がする・・・

ALS に効く薬はないけれど、自分のつらさをわかってくれていると感じる言葉や表情、雰囲気は薬よりも効きます。人に癒されます。

これは私の経験かもしれませんが、励ましや慰みの言葉は、心から出た言葉がそうでないかはすぐわかってしまいます。無理なお願いかもしれませんが、仕事に忙殺されないでその人その人に向き合って接して欲しいです。

本稿は医療講演で使用したパワーポイントを編集して掲載しています。